

■ 第3期ものづくりマイスター・カレッジが開講

本学の教員が講師の一部を務め、地元機械産業界の技術者育成を目指している「ものづくりマイスター・カレッジ」(柏崎技術開発振興協会主催)の第3期目が平成20年9月10日から1年間(毎週水曜)の講座として開講しました。NC旋盤、NCフライス盤、機械保全、知識習得の4コースが設けられ、29人でのスタートとなりました。

この講座の受講修了者からは、新潟県技能競技大会で上位入賞するなど多数の表彰者を輩出しており、非常に評価の高い講座となっております。



■ 柏崎産-官-学コラボ「Ki-g-aC (キガック)」の活動紹介

柏崎地域の産業界・行政・本学による産官学連携組織であるキガックの新たな活動グループを紹介します。

『レドックスフロー電池の製作』

このグループは、日下部准教授と企業2社で構成され、レドックスフロー電池の製作を目的に集まったグループです。環境問題や省エネ対策の中で、エネルギーを蓄える2次電池の役割がこれから大きくなると考え、電解液に電気を蓄える方式の同電池について開発を進めていきます。

まずは、UPS(無停電装置)に接続して鉛バッテリーへの代用についての可能性を探っていく予定です。

■ 柏崎市ものづくり活性化センターが開所

平成20年7月1日に柏崎市ものづくり活性化センターが、本学に隣接する敷地に開所しました。

同センターは、昨年4月に新潟県から柏崎市へ譲渡された、旧「柏崎起業化センター」を「柏崎市ものづくり活性化センター」へと名称・機能を改め、柏崎市の工業振興部門と柏崎技術開発振興協会の事務局機能の大部分を移転し、工業振興の拠点として業務を進めております。

本学では、同センターのものづくり技術の継承、新産業・新事業創出などの活動に、人材育成、技術開発の視点から連携協力し、地域の発展に寄与してまいりたいと思います。

報告

■ 平成20年度地域産学交流センター事業一覧

2008年度において、本学地域産学交流センターが実施・参加した事業を下記に列挙します。

- 三条・燕地域産学交流会(平成20年6月25日:新潟県県央地域地場産業振興センター)
- 2008技術シーズプレゼンテーションin柏崎(平成20年8月27日:柏崎市民プラザ)
- 大学教員による柏崎市内企業見学(平成20年8月4、5日、9月1、2日:柏崎市内企業)
- 大学開放(平成20年9月26日:本学)
- 産業フェアin善光寺平2008(平成20年10月10、11日:長野市ビッグハット)
- 小千谷地域産学交流会(平成20年10月31日:小千谷市サンプラザ)
- 柏崎・上越産業界と新潟工科大学との産学交流会(平成20年11月5日:ロワジュールホテル上越)
- ものづくり技術交流展in燕三条(平成20年11月6、7日:新潟県県央地域地場産業振興センター)
- かしわざき企業ガイダンス in NIIT(平成20年11月10日:本学)
- 新潟工科大学産学交流会会員企業との地域懇談会(長岡:8月、上越:11月)※新潟、県央は3月に実施予定。
- 学生の柏崎市内企業見学紹介(機械制御システム工学科1年生、情報電子工学科2年生)
- 柏崎市、柏崎商工会議所との定例会議
- ものづくりマイスター・カレッジ第3期開講(機械制御システム工学科教員)
- 柏崎産-官-学コラボ「Ki-g-aC(キガック)」

■ 編集後記

先日、某テレビ番組で、このような景気後退局面にありながらも活躍を続けているとして、燕市に拠点を置く「磨き屋シンジケート」のことが紹介されていました。金属研磨の技術者集団として認知され、世界各地から仕事の依頼が舞い込むそうです。世界に名立たる大企業が苦戦する中、ここ新潟にこれまた世界に通用する技術があることを、非常に誇らしく思います。やはり、オンリーワンの技術を持つということは、どの様な状況になっても生き残れるということでしょうか。

本学においては、金属ならぬ学生を磨きあげ、産学交流会の会員企業及び地域企業の皆様に役立つ人材を送り出せるよう決意を新たにしました。此の頃です。(K.F)

■ 発行

新潟工科大学地域産学交流センター広報誌 第4号
平成21年2月25日
新潟工科大学地域産学交流センター運営委員会

■ 連絡先

新潟工科大学地域産学交流センター
〒945-1195 新潟県柏崎市藤橋1719
新潟工科大学 キャリア・産学交流推進課内
TEL: 0257-22-8110
FAX: 0257-22-8226
E-mail: career-sangaku@adm.niit.ac.jp